



令和2年度1号(通算28号) 令和2年5月31日
発行元：山梨県立富士見支援学校・旭分校

本校所在地：甲府市富士見一丁目1-1

TEL：055-252-3133 Fax：055-252-6167

E-mail：fujimiy@kai.ed.jp URL：http://www.fujimiy.kai.ed.jp

分校所在地：韮崎市旭町上條南割3314-13

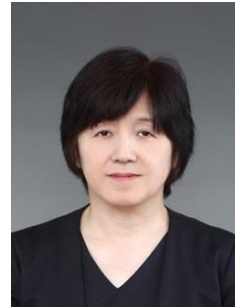
TEL：0551-22-7144 Fax：0551-22-7143

E-mail：fujiasay@kai.ed.jp URL：http://www.fujiasay.kai.ed.jp



富士見支援学校が果たしている役割とは

校長 中村 千尋



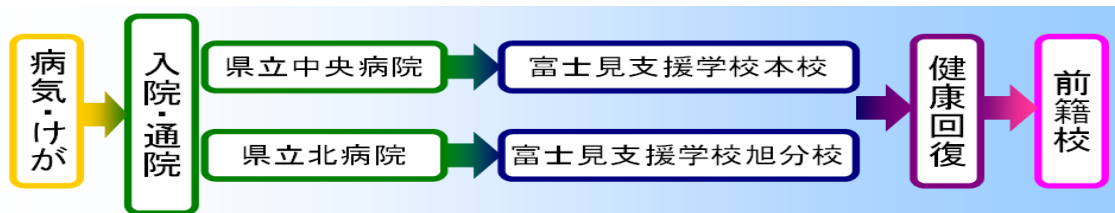
令和元年度より富士見支援学校校長を務めさせていただいております中村と申します。当校のこれまでの学校運営・教育活動に寄せられました、保護者各位ならびに関係機関各位の多大なるご理解ご協力に対し、心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症対策としての臨時休業中に年度が切り替わるという、かつてない幕開けにより令和2年度は始まりました。何より「命」を最優先しての対応でしたが、学校が再開された現在は、感染症対策に万全を期しつつ、学習活動の回復に向け、全教職員が心一つにして取り組んでおります。

当校は病弱特別支援学校であり、山梨県立中央病院と山梨県立北病院で加療中(入院・通院)の小中学生のために、一人ひとりの病状や特性に配慮しながら、本校と旭分校において学習指導や支援を行っております。在籍する児童生徒は、病気・事故による入院のみならず、心身症等による学校不応など多様化する傾向にあります。個別の教育的ニーズや学びの特性に合わせた指導を行うことで、基礎的基本的な学力の定着を図っております。また、自分自身を知り、よりよい対人関係や社会性を培うため、心理学的アプローチやキャリア教育等の観点から、個に応じたきめ細やかな指導やさまざまな体験活動の導入等も実践しております。また、センター的機能として校種を越えた相談支援業務や、『高校生こころのサポートルーム』活用事業も担っています。

本年4月に新たな病弱特別支援学校「うぐいすの杜学園」が開校しました。当校がこれまで果たしてきた役割を総括し、新設校との連携を図りながら、本県の病弱支援教育の更なる充実に向けて日々の教育実践を展開してまいります。今後とも変わらぬご支援ご理解をよろしくお願い申し上げます。

○富士見支援学校のシステム



県立中央病院・北病院に入院・加療している小中学生のうち、医師が本校での教育が望ましいと判断し、本人及び保護者の同意が得られた場合に本校への転学が可能となり、手続きを経て授業開始となります。病状が回復し、もとの学校への通学が可能であるという医師の診断を受けた時点で、再び小中学校へ転学する手続きを行います。病気療養児に対しては、学習空白等が生じないように、学習が可能になった時点で教育を行うこと、手続きが完了する前でも教育を受けられるようにすること等が、国で認められています。

富士見支援学校Q & A

Q:どのような教育が行われているのですか？

A:基本的に小・中学校に準じた教育を行います。病状によっては、学校に慣れることに主眼を置き、子どもの興味関心に合わせた題材で学習を進めていくこともあります。もとの学校と連絡を取り合いながら、それぞれのペースに合わせた教育を行っています。

Q:授業料などは必要ですか？

A:必要ありません。個人活動費・教材費等の集金はあります。

Q:卒業はどうなりますか？

A:基本的に本校では、入学式・卒業式は行いません。卒業式直前まで本校へ通学することができますが、卒業証書は在籍していた学校で受け取ることになります。進路指導は、もとの学校の担任と連絡を取り合いながら行います。本校に在籍したほとんどの生徒が高校に進学しています。

本校の紹介

入院している小・中学生の場合

病気やけが等で中央病院に入院したときに、学習が遅れて困ってしまうことがないように、授業を受けることができます。ベッドサイドで授業を受ける場合と、病院と廊下続きの学校に登校して、授業を受ける場合があります。退院して、学校に戻ったとき、授業の遅れを心配することなく、また学校生活のブランクからくる抵抗感も少ないため、スムーズに復帰することができます。

通院している小・中学生の場合

小児科や精神科の主治医の指示を受け、自宅から通院しながら通学することができます。病気やけがのための長期入通院、心因性疾患、人間関係のつまずきからくる環境への不応等、一人一人の実態に合わせて、段階を考慮した時間割で学習します。登校困難だったため、低下しがちだった心のエネルギーを高め、自信を回復できるように支援を行います。学習空白を補い、気持ちのサポートを行う中で、明るさや自信を取り戻し、もとの学校に戻ったり、卒業後の進路に向けて自発的に歩み出そうとしたりする意欲を高めています。入院生・通院生どちらの場合も、小・中学校に準じた教育課程で学習します。また支援学校の教育課程で特別に設けられた「自立活動」の中で、個々のニーズに合わせた指導を行っています。

教育課程表 週あたりの授業時間数です。

小学部

学年	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	外国語	道徳	特別 活動	総合的 な学習	外国語 活動	自立 活動	合計
1年	8	/	4	/	3	2	2	/	2	/	1	1	/	/	2	25
2年	8	/	5	/	3	2	2	/	2	/	1	1	/	/	2	26
3年	7	2	5	2.6	/	1.7	1.7	/	2	/	1	1	1	1	2	28
4年	7	2.6	5	3	/	1.7	1.7	/	2	/	1	1	1	1	2	29
5,6年	5	3	5	3	/	1.5	1.5	1	2	2	1	1	1	/	2	29

中学部

学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術・ 家庭	外国語	道徳	総合的 な学習	特別 活動	自立 活動	合計
1年	4	3	4	3	1	1	2	2	4	1	1	1	2	29
2年	4	3	3	4	1	1	2	2	4	1	1	1	2	29
3年	3	4	4	4	1	1	2	1	4	1	1	1	2	29

☆☆学習の様子☆☆



〈小学部：宿泊学習〉



〈中学部：授業風景〉



〈総合的な時間：農園活動〉



〈特活：校外学習〉



〈特活：学園祭実行委員会の活動〉



〈特活：ヨガ教室〉

旭分校の紹介

心因性疾患や人間関係のつまずきによる不適応等により、県立北病院に入院又は通院している小・中学生が、治療を受けながら学ぶ学校です。小・中学校に準じた教育課程で学習します。一人一人の実態に合わせて、自立活動を中心にした初期段階、クラスに入って少しずつ集団や日課に慣れていく適応段階、通常の日課表に沿って主体的に活動する通常段階と段階を踏んだ指導を行っています。

旭分校 令和2年度 日課表(中学部用) 例

		月	火	水	木	金
	9:00~9:15	登校・朝の会・健康観察				
1校時	9:15~10:05	数学	社会	外国語	理科	自立活動
		休み時間				
2校時	10:10~11:00	技・家 美術 隔週	理科	国語	社会	理科
			休み時間			
3校時	11:05~11:55		国語	数学	音楽	数学
		昼食・昼休み				
	12:40~12:50	清掃(特別活動)				
4校時	12:50~13:20	保健体育		ロング体育 自立活動 隔週	保健体育	
		休み時間			休み時間	
5校時	13:30~14:20	社会	外国語		国語	総合
		休み時間		休み時間		
6校時	14:25~15:15	外国語	道徳	14:20	数学	国語
	15:15~15:25	帰りの会(自立活動)		下校	帰りの会(自立活動)	

通常段階の日課表を以下に紹介します。

教科学習

学習空白に対する不安の解消や自信の回復をねらいに、一人一人の実態に合わせた内容を2~3人の小集団で行っています。技能教科は個々の実態に沿いながら学部全体で取り組んでいます。



総合的な学習の時間

体験学習などの行事に向けての活動、興味関心に応じた体験活動に取り組んでいます。

ロング体育

毎日行っている体育のまとめとして児童生徒・職員全員で、広い場所でゆったりと、またダイナミックな活動をしています。



学部全体で行う授業

自立活動

個々の目標に沿って教育活動全体で取り組みます。週1回担任と個別に話をしたり活動したりする時間があります。また集団自立として人とつながる楽しさを味わい、係活動を経験するふれあい活動も設定しています。

☆☆学習の様子☆☆

【ロング体育】

近くの公園へウォーキングに行くような時間もあります。初夏の風を感じながら皆で気持ちよい汗を流します。会話はずみ、楽しいひとときです。



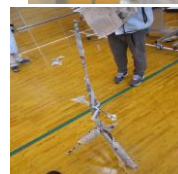
【技術・家庭(野菜の栽培)】

昨年は「夏野菜を植えよう」をテーマに生徒が植える野菜を決めて栽培しました。たくさん収穫できるように、協力して世話をしていきます。収穫時期には家庭科の授業で調理して、みんなで美味しくいただきました。

【ふれあい活動】(座・サイエンス)

旭分校での学校生活をより楽しく過ごせるように児童生徒で企画したり、教職員で企画したりする活動です。この日はサイエンスを題材に活動を行いました。いかにも怪しいサイエンティストが登場。おもしろ実験をみたり、新聞紙で高いタワーを作る競技を行ったりしました。

チーム内で連携や相談をしながら決まった時間での新聞タワーを作り、柔軟性のある柔らかな発想と見事なチームプレイで児童生徒チームが教職員チームを抑えて2mを超える見事な記録を出すことができました。



富士見は支援します…！

子どもたちの笑顔のために…

富士見支援学校本校と旭分校は、病弱特別支援学校として、慢性疾患や心因性疾患を持つ小中学生、高校生が病気を抱えつつも、いきいきとした学校生活を送るために、子どもたち本人・保護者・教職員の方々からの相談に応じ、援助支援や情報提供を行います。

教育相談では、実態を捉える視点や病状、本人の困った感に応じた具体的な支援や教育的対応について、保護者や学校の先生方と一緒に考えます。

県教育委員会が富士見支援学校本校に設置している「高校生ころのサポートルーム」については、公立高等学校に在籍する高校生の困りについて、在籍校と連携しながら、継続的な教育的支援を実施しています。

お子様のことで気がかりなことがありましたら、お気軽にご相談ください。相談の内容についての秘密は厳守いたします。

保護者の皆様へ

教育的な配慮や支援を必要とする子どものための教育相談（電話相談、来校相談）や学校見学を行います。

- ◆病气やけがで学校に行けない
- ◆頭痛や腹痛で学校に行けない
- ◆不安や緊張が強くて学校に行けない
- ◆教室で落ち着かない
- ◆友達とうまくコミュニケーションがとれない
- ◆学習意欲がでない etc.

学校の先生方へ

病气による困りを抱える子どもへの指導について、教育相談や訪問支援、各関係機関等に関する情報提供を行います。

- ◆訪問支援・巡回相談による指導のアドバイス
- ◆特別支援教育に関する研修会の企画・開催、資料の提供
- ◆「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の作成のアドバイス
- ◆関係機関等に関する情報提供 etc.

相談はこちらへ…



富士見支援学校 本校

担当： 相談支援部
住所： 甲府市富士見一丁目1-1
電話： 055-252-3133
Eメール： soudan@fujimiy.kai.ed.jp
ウェブサイト： <http://www.fujimiy.kai.ed.jp>



富士見支援学校 旭分校

担当： 相談支援部
住所： 韮崎市旭町上條南割 3314-13
電話： 0551-22-7144
Eメール： fujiasay@kai.ed.jp
ウェブサイト： <http://www.fujiasay.kai.ed.jp>